

# 審査総評

## 図画の部

### 自分の感覚を大切にしたわたしなりの表現

第47回となるコンクール図画の部では、「農業に関するもの」と「ごはん・お米とわたし」という2つの課題で、618点もの応募がありました。今回も、テーマをもとに子どもたちが見たり、体験したりしたことを表現した力作が多数寄せられました。

今回着目したのは、子どもたちの感覚を生かした子どもらしい表現です。子どもたちの表現は多様で自由です。子どもたちは自分の感覚を通して様々な表し方をします。それは形や色であったり、自分の経験と結びつけて新たな視点で組み合わせ、その子どもならではの表現をします。

今回の作品の中でも、子どもたちの絵に対する、自由さと多様性が見られました。例えば風景をリアルに再現した、夏の季節を感じさせるようなはっきりとした色をつかった作品がある一方、同じような風景でも、その子どもの印象が入っているかのような優しさのある色をつかった作品もありました。また、家族やお友だちと一緒に農作業をしている様子を描いたもの、お友だちと一緒に食べるおにぎりのおいしさに、ほっぺたを膨らませている表情を描いたものなど、子どもたちがそれぞれのとらえ方をし、イメージを表現していました。

「絵に表す」ということは、自分自身を表すことと同じです。これからも自分が感じたことを大切に、感じたことから生まれたイメージや表し方のアイデアを積極的に生かして、自信を持って取り組み、わたしなりの表現をしていくことを期待しています。



▲図画の部の審査



▲習字の部の審査

## 習字の部

### 文字から伝わるその人らしさ

栄えある「第47回堺市小学生夏休み児童作品コンクール」習字の部は、半紙・条幅部門合わせて1万6531点もの応募がありました。

出品作品からは、「もう1枚」「あと1枚」と、自分の納得いくまで最後まで努力された姿が伝わってきました。応募された全ての皆さんにその努力を讃えたいと思います。

応募作品はいずれも力作ぞろいでしたが、点画の基本を押さえているか、筆圧や穂先の動きに注意して書いているか、紙面にバランスよく取まっているか等が審査のベースとなりました。厳正なる審査のうへ入賞された皆さん、誠におめでとうございます。

近年、パソコンなどのデジタルの普及により、手書きの機会が確実に減ってきました。だからこそ、改めて手書きの良さが見直されてきています。文字には一人ひとり個性があり、その人らしさが伝わってきます。自分の思いや気持ちを伝えるのに、手書きは最も適しているといえます。今回の応募を機に、文字に関心をもち、字を書くことを大切にしてほしいと思います。そして、文字を書く基礎基本となる硬筆や毛筆の練習に一層励んでほしいと願っています。

#### ◇審査員名◇ (順不同)

堺市立深井西小学校教頭  
堺市立福泉東小学校教頭  
日展会友・神戸女学院大学講師  
日本書芸院審査員・教育書道社理事  
堺市書道連盟理事  
堺市立美原西小学校長  
堺市立宮園小学校長

芳賀敬子  
市川友香  
田端芝蘭  
西尾曹溥  
酒井冬石  
田中圭一  
那賀典仁